

平成 3 0 年 第 7 回

武蔵村山市教育委員会定例会

平成 3 0 年 7 月 1 9 日

武蔵村山市教育委員会

平成30年第7回武蔵村山市教育委員会定例会

1. 日 時 平成30年7月19日(木)

開会 午前 9時29分

閉会 午前10時13分

2. 場 所 武蔵村山市役所5階 委員会室

3. 出席委員 池谷光二(教育長) 土田三男

島田妙美 杉原栄子

比留間雅和

4. 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 田代 篤 学校教育担当部長 佐藤 敏数

教育総務課長 井上 幸三 教育施設担当課長 指田 光春

指導・教育センター担当課長 勝山 朗 学校給食課長 児玉 眞一

文化振興課長 宮沢 聖和 スポーツ振興課長 指田 政明

図書館長 加藤 秀郎 指導主事 今井 一馬

指導主事 加藤 由裕

5. 会議に出席した事務局の職員

教育総務課教育政策係 市場 直樹

東出 真実

議事日程

- 1 会期の決定
- 2 前回会議録の承認
- 3 教育長報告
- 4 議案第38号 平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書について
- 5 その他

◎開会の辞

○池谷教育長 本日の会議に際し、2名の方から傍聴の申し出があり、武蔵村山市教育委員会会議規則第29条の規定に基づき、会議の傍聴を許可しましたので報告いたします。

本日の出席委員は全員でございます。

これより平成30年第7回武蔵村山市教育委員会定例会を開会いたします。

◎議事日程の報告

○池谷教育長 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりでございます。これに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○池谷教育長 御異議なしと認め、配付のとおり決定いたします。

◎日程第1 会期の決定

○池谷教育長 日程第1、会期の決定を議題といたします。

本定例会の会期は、本日限りといたしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○池谷教育長 御異議なしと認めます。

したがって、会期は本日限りといたします。

◎日程第2 前回会議録の承認

○池谷教育長 日程第2、前回会議録の承認を議題といたします。

本件は、これを承認することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○池谷教育長 御異議なしと認めます。

よって、本件は承認されました。

◎日程第3 教育長報告

○池谷教育長 日程第3、教育長報告を議題といたします。

1点目でございますが、平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（市調査）の結果についてでございます。

資料1を御覧いただきたいと思えます。

内容につきましては、指導主事から報告いたします。

今井指導主事、お願いします。

○今井指導主事 それでは、本市で実施いたしました平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について、御報告いたします。

まずは別冊資料1、1ページを御覧ください。

調査の目的は、各教科の目標や内容の実現状況を把握して、指導方法の改善に生かし、児童・生徒一人一人の確かな学力の定着と伸長を図ることでございます。

今年度は中学校第1学年を対象に、平成30年4月26日に実施いたしました。

対象教科は、中学校、国語と数学の2教科となっております。

続きまして、5ページをお開きください。

こちらでは、平成29年度と平成30年度の総合正答率を比較しております。

国語では前年度を下回っておりますが、数学では前年度を2.4ポイント、上回っております。

続いて、6ページ、7ページを御覧ください。

国語・数学の観点別正答率を示しております。上段では、基礎と活用に関して、下段では評価の観点、一般的に通知表でお伝えしている観点における正答率を示しております。こちらにおいても、数学において昨年度を上回っている傾向にあります。特に数学の観点別正答率では、全ての点において昨年度を上回っております。特色ある学校づくり推進校による算数の研究発表、東京ベーシックドリルの継続的な活用により、数学においては上昇傾向が見られます。

8ページを御覧ください。

8ページには、各教科の正答率別の比率をお示しいたしました。どちらの教科においても、若干二極化の傾向が見えてきております。国語では60%未満、数学では40%未満の生徒の学力向上を図っていくことで、全体的な底上げが見込まれます。

続いて、11ページから15ページまでとなります。

本調査とあわせて実施しております生活・学習意欲調査の結果について掲載いたしました。

ここでは、特徴的な項目に絞って御説明いたします。

昨年度を上回っている項目は、12ページの家庭学習時間、13ページの学校が好きだ、勉強

が好きだと思う割合です。特に家庭学習時間については、大幅に向上しております。こちらは、家庭学習時間の例示や自主学習の進めなどを含めた各学校の家庭学習の啓発が功を奏しているものと考えられます。

これらの結果より、今年度においては、国語の部分において大きく課題が見られます。とりわけ作文において、指定された文字数で書くこと、3段落構成で文章を書くこと、文章の内容に沿ったまとめを書くことに課題があることから、短い文章を書く活動を各教科、日常で取り入れていく必要がございます。自分の意見や考えを書けるようになることで、さまざまな教科等の学力向上にもつながるものと考えております。

また、これらの調査結果及び7月5日に実施いたしました東京都教育委員会主催の学力調査の結果等を踏まえ、各学校では授業改善推進プランを作成してまいります。このプランをもとに、各校の授業改善がさらに進むよう指導、助言をしてまいります。

以上でございます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

続きまして、2点目でございます。

残食ゼロ週間の実施結果についてでございます。

資料2を御覧いただきたいと思えます。

内容につきましては、学校給食課長から報告いたします。

児玉学校給食課長、お願いします。

○児玉学校給食課長 それでは、平成30年度第1回目の残食ゼロ週間の実施結果につきまして、御報告いたします。

学校給食残食ゼロ週間につきましては、平成23年度から設定しておりまして、小学校においてはモリモリウィーク、中学校においては残食ゼロウィークという名称で実施しております。

今年度の第1回目は、6月が食育月間であること、また毎月19日が食育の日とされていることから、6月18日から22日までの1週間を設定し、各学校で取り組んでいただいたところでございます。残食ゼロ週間中の残食率等につきましては、昨年度の結果も含めて資料2のとおりでございます。資料の表面が小学校、裏面が中学校の結果になっております。

グラフでお示しさせていただいておりますとおり、今回も残食ゼロ週間中の平均残食率は、6月、1か月分を下回っており、6月、1か月の平均残食率と残食ゼロ週間中の平均残食率とを比較しますと、小学校で全体では3.9%、中学校全体では4.4%の減となっております。

この結果を受けまして、過日、開催されました校長会及び副校長会におきましても、6月、1か月の小・中学校全校への供給量が約90トンに上るということで、1%の残食率が下がっただけでも相当の残食が減りますということなどをお伝えしたところでございます。

なお、次回、今年度、2回目の残食ゼロの事業につきましては、和食の日であります11月24日に近い日程で実施する予定でございます。

報告は以上です。

○池谷教育長 ありがとうございます。

続きまして、3点目でございます。

平成30年度少年少女スポーツ大会第48回少年野球大会の開催結果についてでございます。

資料3を御覧いただきたいと思います。

内容につきましては、スポーツ振興課長から報告いたします。

指田スポーツ振興課長、お願いします。

○指田スポーツ振興課長 それでは、平成30年度少年少女スポーツ大会第48回少年野球大会の開催結果について、御報告いたします。

本大会は、6月30日、土曜日から7月8日、日曜日までの土曜日、日曜日の4日間、総合運動公園運動場を会場として開催をいたしました。

参加状況といたしましては、小学校6年生、5年生で構成される一部が11チーム、131人、小学校4年生以下で構成される二部が8チーム、108人の合計19チーム、239人で行われました。

成績につきましては、資料にお示しのとおりでございますが、一部の優勝が第三小学校の武蔵ライオンズAチーム、二部の優勝が第八小学校の青空Dチームという結果で行われました。

教育長並びに教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中、開会式及び閉会式に御出席をいただき、大変ありがとうございました。お礼申し上げます。

以上でございます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

続きまして、4点目でございます。

平成30年度姉妹都市交流事業第12回栄村駅伝大会の開催結果についてでございます。

資料4を御覧いただきたいと思います。

内容につきましては、スポーツ振興課長から報告いたします。

指田スポーツ振興課長、お願いします。

○指田スポーツ振興課長 それでは、平成30年度姉妹都市交流事業第12回栄村駅伝大会の開催結果について、御報告いたします。

7月8日、日曜日に開催されました栄村駅伝大会につきましては、武蔵村山市から小中一貫校大南学園第七小学校及び第四中学校の児童・生徒8人を含む18人が、でえだら、かたくり、えのきのそれぞれのチームとして参加をいたしました。大会には、スポーツ推進委員2人とスポーツ振興課職員2人が、児童・生徒の対応等を含む引率として同行いたしました。

また、武蔵村山市からは、先ほど申し上げた3チームの他に、峰すいそう会、西部地区おやじの会、ムサムラ二小teachersの3チームも参加をしたところでございます。

全体の成績は、特別参加を含めた全23チーム中、総合タイムで、かたくりチームが6位、えのきチームが9位、でえだらチームが20位という結果でございました。

各選手の成績と詳細につきましては、資料、次ページにお示しをしておりますので、御参照いただきたいと思います。

大会当日は、武蔵村山市から市長、副市長、教育長を初め、参加小・中学校の校長、副校長など、多くの方に応援に駆けつけていただき、大会を盛り上げていただきました。

教育長におかれましては、公私とも御多用の中、長野県栄村まで応援に駆けつけていただき、大変ありがとうございました。お礼申し上げます。

以上でございます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

教育長報告は以上でございます。

5点目のその他でございますが、特に報告等ございません。

教育長報告に対する質疑等があればお受けいたします。

いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 市の調査の学力調査、国語と数学なのですが、数学につきましては、昨年度よりも成績も上がり、正答率も上がりということで、すばらしいと思います。観点別の正答率は、全て上がっているということで。もう一つは、この正答率の中の思考力・判断力の活用というところが、昨年よりも0.1ポイント下がっているんですか。といっても、これは横ばいと考えていいと思うんですが、目標値を超えているということで、すばらしい結果だと思います。これはやはり校長先生を始め先生方の御尽力とか、それから子供たちの努力とか、そして市

教委のほうの指導、支援があったからだと思って感謝いたします。

国語についてですけれども、昨年より少し下がっているということで、先ほど文章を書くこととか、まとめとか、意見を書くことにまだ課題があるというふうなお話が、端的に御説明があったんですけれども、御専門の立場から現状と課題について、少し詳しくお伝えいただければありがたいなと思います。

以上です。

○池谷教育長 今井指導主事、お願いします。

○今井指導主事 説明させていただきます。

国語の現状と課題につきまして、先ほど申し上げられなかった部分としまして、全国と比較しますと基本部分において、漢字の読み取りはおおむねできておりますが、漢字の書き取りについては課題がまだある状態でございます。漢字の書き取りという部分について、過日の研究主任会等で学校への普及を図っているところでございます。

それと先ほど書く能力という部分がありましたが、やはり要旨を捉えて書く、初め、中、終わりで書く、そして発表の内容に沿ったまとめを書くという部分に、やはり課題が見られております。こちらの部分につきましては、現在、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が進んでおります。その流れの中で、自分の考えを書く、グループ等の協議により、さらに意見を高める、そして自分の言葉でまとめを書くという授業展開を今、各学校で進めております。

以上でございます。

○池谷教育長 よろしいでしょうか。

○杉原委員 分析、また改善、よろしく願いいたします。

○池谷教育長 ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

土田職務代理者、お願いします。

○土田職務代理者 同様な内容の質問なんですけれども、この学力向上、前年度と比較してというような統計上の問題ですけれども、武蔵村山市の子供たちに対して、レベルが全般的に、平均であられるというのが見えると思うのですが、今年の中学1年生は、昨年は小学校6年だったんですけれども、例えば中学1年生の追跡的な調査というのはなかなか難しいものですか。今年、中学1年生の学力はこうだった。来年は2年生になり、この2年生が、この1年間で、4月の学力テストの後の2年になった4月の時点での1年間で、どのような変化

があったのかとか、そういうような市独自でのこういった調査、学力テストみたいなものができないものでしょうか。それによって、その子供たち、年度によってかなり差があるような気もするんですけども、そういった追跡、年下の子と比べるんじゃないくて、その子供たちがどうなっているかという調査の一つ方法というの、あってもどうなのかなと思うんですけども、そういった問題についてはなかなか難しいでしょうか。

○池谷教育長 勝山指導・教育センター担当課長、お願いします。

○勝山指導・教育センター担当課長 お答えをいたします。

実際のところは、小学校の第5学年以降、さまざまな学力向上を図るための調査が、中学校第3学年までは継続的に行われています。小学校第5学年及び中学校第2学年は、東京都の学力向上を図るための調査、小学校第6学年と中学校第3学年は、全国学力・学習状況調査、そして唯一、行われていない中学校第1学年において、本市独自の学力向上を図るための調査を実施しているというところでございます。

委員が御指摘のとおり、前年度の比較となりますと、対象の児童・生徒が変わってしまうために、それが上昇したことが、どのような効果があったのかということの検証には、直接的にはつながらないと我々も考えておまして、実際にはその小学校第5学年から中学校第3学年まで、同じ児童・生徒がどのように変化をしていったのか。それは、東京都、あるいは全国の平均正答率と比較をしながら、どのように変化しているのかについては、我々も市教委として独自に進めているところではございます。しかしながら、それを公表するという形になると、それは学年の子供たちを比較することにもつながってしまうのかなということで、子供たちの課題、その年の課題は何なのかということの分析については、市教委としても、また各学校での授業改善推進プランの作成にも生かしながら、進めているところでございます。

以上でございます。

○土田職務代理者 ありがとうございます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

特によろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 では、これもちまして教育長報告を終わります。

ありがとうございます。

◎日程第4 議案第38号 平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業
点検・評価報告書について

○池谷教育長 では、日程第4、議案第38号 平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書についてを議題といたします。

教育総務課長より議案の朗読をいただきます。

井上教育総務課長、お願いします。

○井上教育総務課長 それでは、議案を朗読いたします。

議案第38号 平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書について。

平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書について、別紙のとおり教育委員会の議決を求めます。

平成30年7月19日、武蔵村山市教育委員会教育長。

別紙についての朗読は省略させていただきます。

以上でございます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

それでは、議案第38号の提案理由を説明させていただきます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会事務事業点検・評価報告書を作成する必要があるため、本案を提出するものでございます。

なお、内容につきましては、教育部長から説明いただきますので、よろしく御審議の上、御決定くださるようお願いいたします。

田代教育部長、お願いします。

○田代教育部長 それでは、議案第38号 平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書について、御説明申し上げます。

本報告書の作成は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価し、その結果をまとめ、議会に報告するとともに、市民に公表するものでございます。

事務局では、武蔵村山市第二次教育振興基本計画に定める重点施策の主要事業等から75事業を抽出し、当該事務事業を所管する部門において一次評価を行いました。その後、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、学識者等の3人で構成いたします有識者会議におきまして、一次評価を行った75事業のうち、10事業につきまして御

意見を頂戴いたしましたので、その意見を反映した報告書を作成したところでございます。

今後、9月に開催されます市議会定例会に報告するとともに、市民の方々にも公表してまいります予定でございます。市民等への公表につきましては、市のホームページ等を考えております。

なお、詳細につきましては、教育総務課長から御説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

○池谷教育長 井上教育総務課長、お願いします。

○井上教育総務課長 それでは、資料、別紙、平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書について、御説明をさせていただきます。

資料の1ページを御覧いただきたいと思います。

昨年度の点検・評価において、有識者の先生から、来年度以降は何らかの評価基準を設定し、当該基準に基づき評価をすることが望ましい旨の御意見をいただいております。そのため、本年度の評価に当たっては、1ページの中段以降の表にお示しした評価基準を事前に設定いたしました。当該基準に基づき、各事業の所管課が一次評価を実施いたしました。

続きまして、5ページから7ページまでを御覧いただきたいと思います。

項番2、点検及び評価結果でございます。

武蔵村山市第二次教育振興基本計画に定める重点施策の主要事業等のうち、点検及び評価の対象事務事業として、事業一覧のとおり75事業を抽出し、一次評価を行い、これらのうちから有識者の方が10事業を抽出し、二次評価を行っております。二次評価を行った10事業を表の左端の評価番号で申し上げますと、6番、18番、29番、34番、46番、48番、57番、65番、73番及び75番でございます。

それでは、二次評価を行った事業を中心に御説明をさせていただきます。

13ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号6、事業改善推進プランの作成・活用でございます。

事業改善推進プランの作成により、学校としての授業改善の方向性を明確に示すことができている。今後とも、これまでの取組を継続するとともに、児童・生徒の学力の向上に向けて、さまざまな研修充実や、OJTを通した日々の事業の改善を推進することが重要である等の評価でございます。

次に、25ページ、26ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号18、帰国子女等指導助手の配置でございます。

グローバル化の進展等、社会の急激な変化に伴い、本市においても外国から帰国した児童・生徒、外国人児童・生徒に対する教育の充実が求められている。日本語によるコミュニケーションに課題のある保護者や、児童・生徒への対応については、外部の人材等を適切に活用し、円滑な教育活動が行えるように環境を整備することが重要である。児童・生徒が円滑に学校生活や地域に対応できるよう、指導助手の適切な介入を期待する等の評価でございます。

次に、37ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号29、コミュニティ・スクールの充実でございます。

コミュニティ・スクールがどのように充実したかを評価する指標としては、学校運営協議会の開催状況、学校と地域の連携の状況の評価だけではなく、校長の学校経営を地域がどのように支えることができたかなど、学校のガバナンスの強化の度合いを総合的に評価していくことが重要である。今後、コミュニティ・スクールに関する施策の成果指標の研究を行い、各学校の取組状況を適切に評価していくことが必要であると思われる等の評価でございます。

次に、43ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号34、子ども安全ボランティア活動の推進でございます。

登下校時の児童の安全を確保することは、学校だけでなく家庭や地域社会全体で取り組まなければならない課題である。とりわけ、交通事故や犯罪などに巻き込まれないよう、通学路の至るところに大人の目が監視している状況を構築するための取組が展開できるよう、予算面や人材育成面などの観点からの充実が急務である。今後も、これまでの取組を継続するとともに、さらなる充実を期待したい。登下校中の児童・生徒の安全確保は重要な課題である。ボランティア等の人材確保等の課題は多いと思うが、今後も子供たちの安全確保に努めていただくことができることを望む等の評価でございます。

次に、56ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号46、学校施設（校舎・体育館、プール等）・設備の改修でございます。

学校施設の改修が適切に実施されているとのことであり、安堵する思いである。今後も、学校施設の改修計画に基づき、着実に施設改修に取り組んでもらいたい。本年6月に発生した大阪北部地震では、市立小学校の学校施設の損壊による児童の死亡事故が発生した。本市の学校施設においても早急な点検等が必要である。今後の適切な対応をお願いしたい。今後も児童・生徒が安全に過ごせるよう、危険な箇所、老朽化している箇所を確認し、計画的に改修を進めることを期待する等の評価でございます。

次に、59ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号48、特別教室等の冷房化の推進でございます。

近年、地球温暖化などにより、夏季の気温が著しく上昇している。熱中症の予防と同時に子供たちの教育環境を良好に保つことができるよう改修計画に基づく適切な対応を期待する等の評価でございます。

次に、68ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号57、学校給食の充実でございます。

学校における給食にかかわる事業が、その趣旨や目標に基づき、適切に取り組むことができるよう、さらなる改善を期待したい。地場食材の割合が低い「なす」、「玉ねぎ」について、今後、少しでも地場食材の割合が高くなることを望む等の評価でございます。

次に、76ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号65、近隣市町と連携した図書館の相互利用の実施でございます。

今後のさらなる利用の推進を期待する。もう少し利用方法等の周知が必要であるとする。今後、タブレット端末やホームページを活用し、市民が手軽に本を検索できるようなシステムが整備されることを期待する。今後、北多摩6市間の相互利用が速やかに行うことができるようになることを期待する等の評価でございます。

次に、84ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号73、歴史民俗資料館の運営の充実でございます。

年中行事や特別展等を通して、市民の学習機会の拡充と文化財保護に対する意識の高揚を図るなどの取組が行われ、高い自己評価結果が見られる。学芸員の雇用については、学芸員のモチベーションが上がるような仕組みづくりの構築が望まれるところである。今後も魅力的で多くの市民が関心を持つ企画を実施することを望む。学芸員の規約や処遇などに関しては改善の余地があるとする。後任の育成なども含め、考慮が必要とするなどの評価でございます。

次に、86ページを御覧いただきたいと思います。

評価番号75、青少年補導連絡会によるパトロール等の推進でございます。

児童・生徒の行動、友人との活動内容は、時代によって変化している。従来のパトロール先だけではなく、学校や家庭とも連携し、巡回する場所や時間を見直すことも必要ではないかと考えるとの評価でございます。

以上が二次評価でございます。

続きまして、87ページを御覧いただきたいと思います。

有識者の評価のまとめでございます。

全体的に限られた予算の中で、児童・生徒の立場に立った適切な施策が展開されており、予算の執行状況も適切であると思われる。現在、学習指導要領の全面実施に向けた新たな教育課程を編成するための準備を行う時期であるが、限られた予算の中で、新しい時代の教育の実現に向けた教員の研修や授業の改善、あるいは学校経営に資するための施策の立案等が期待される。また、今後、各事業の目標に対する達成状況について、各部署が自己評価を実施する際の評価基準をより精度の高いものとするための工夫や改善が期待される場所である。

教育の充実と児童・生徒の安全のために議論を続けていくこと、さまざまな変化に柔軟に対応することも必要であると思った。よりよい武蔵村山市となることを期待する。

取り組んでいる事業の達成率も大切であるが、その事業について継続し見直すことを繰り返すことも大切であると感じた。また、地域との連携の大切さも感じた。年間さまざまなイベントが行われているが、各事業を紹介して市民の皆様にも認知してもらえるようにする必要があると思う。今後の活動に期待するとまとめております。

88ページからは、教育委員会の活動状況を掲載しております。

また、95ページからは資料でございますので、後ほど御確認をいただければと存じます。

以上、簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

では、これより質疑に入ります。

島田委員、お願いいたします。

○島田委員 1点、質問したいんですけども、評価番号18の帰国子女等指導助手の配置というところで、帰国または来住している児童・生徒は何人ぐらいいらっしゃるのか。あと、また具体的にどのような対応をされているのかお伺いしたいと思います。

○池谷教育長 井上総務課長、お願いいたします。

○井上教育総務課長 それでは、外国から帰国した児童・生徒、また外国籍の児童・生徒というところでございますが、村山学園の日本語学級に在籍をしている児童・生徒数についてということで、お答えをさせていただきたいと思います。

村山学園の日本語学級に在籍している児童数につきましては、合計で24名でございます。また、生徒数につきましては12名というふうになっております。

以上でございます。

○池谷教育長 勝山指導・教育センター担当課長、お願いします。

○勝山指導・教育センター担当課長 こちらの帰国子女等指導助手の配置にかかわる学校での対応については、私のほうからお答えをさせていただきます。

こちらの25ページのほうにも書かれていますが、日本語学級につきましては小中一貫校村山学園に小学部、中学部それぞれに設置をされております。それぞれの児童・生徒が在籍する学校から、週当たり8時間を上限に通級をしていくという形になってございます。基本的には、日本語の指導を日本語で行うという形で行ってはおりますが、何らかコミュニケーションが難しい、初期の段階では難しい児童・生徒もおりますので、そのための指導助手が配置をされているというところでございます。

指導の初期の段階では、個別の指導が必要ですので個別指導、その後、ある程度の日本語の理解が進んだ段階では、グループの指導等を行っております。しかし、週当たり8時間が上限でございますので、なかなか日本語が自由に使えない段階では不自由な場面もございませぬので、日本語学級の教員等が休み時間、あるいは放課後等も使って子供に、児童・生徒に指導をしたり、あるいは授業のやっている教室に入って補助をしたりと、さまざまな形で支援をしているところでございます。

以上でございます。

○池谷教育長 島田委員、お願いします。

○島田委員 日本語がわからないことによってお友達ができなかつたり、そういうのを防ぐために支援をしていただきたいなと思います。

以上です。

○池谷教育長 ありがとうございます。

その他ございますでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 それでは、評価番号の34番と65番について伺います。

34番、子ども安全ボランティア活動の推進ということで、子供の安全というのは何よりも重要なことだと思います。ただ、課題として登録人数が減少しているというような状況もあるようで、今後の取組として市教育委員会の主体的な取組が必要だというふうに評価されています。予算面、それから人材育成面として、人材確保についての課題ということで指摘されているんですが、これについて専門的な立場から施策の改善ということをどのようにお考

えか、見解を伺えればありがたいと思います。

それから、65番の図書館の相互利用の実施ということで、本市の図書館の取組、大変素晴らしいと思います。みんなよく利用しておりますし、ないものはリクエストすると、すぐ取り寄せていただけるということで、ありがたいという言葉をよく聞きます。ここで、二次評価のほうで、北多摩6市の相互利用が速やかに行えるようにと書いてあるんですが、北多摩6市というのはどこなのか、また今、取組の進捗状況について伺えればありがたいと思います。

○池谷教育長 ありがとうございます。

では、杉原委員から2点ございました。評価番号34、子ども安全ボランティア活動の推進、評価番号65、近隣市町と連携した図書館の相互利用の実施ということですがけれども、まず評価番号34、子ども安全ボランティア活動の推進については。

では、井上教育総務課長、お願いします。

○井上教育総務課長 それでは、私のほうから評価番号34の子ども安全ボランティア活動の推進について、お答えをさせていただきます。

こちら、私どものほうの自己評価におきましても、ボランティアの担い手が高齢化により減少しているところを記載させていただいたところがございます。ただ、現実問題として、今現在、各学校からボランティアの数が足りなくて、学校運営、安全の確保に支障が出ているというお話は何ってはおりません。ただ、トレンドとして、高齢化が進んで今後は減少していくことが危惧されると。それを踏まえまして、有識者の方々からも、もうちょっと市教委、学校任せだけではなくて、例えばこういうボランティアが必要だとか、そもそもこういうボランティアがあるんだというようなところを、市教委が例えばホームページ等、また市報等を利用して周知をしていく。実際、足りなくなってから困るのではなくて、その前に手だてを打っていくことが必要じゃないかというような御指摘をいただいたところがございます。事務局といたしましても、そのとおりに考えておりますので、何らかの手だてを遅くなる前に打っていきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○池谷教育長 いかがでしょうか。いいでしょうか。

○杉原委員 市教委の支援というのは、非常に学校にとって心強いと思いますし、また誰でもいいというわけでもないと思うので、市報やホームページによって周知徹底ということをやっているのは素晴らしいと考えます。よろしく願いいたします。

○池谷教育長 ありがとうございます。

続きまして、評価番号65、図書館の関係ですけれども。

加藤図書館長、お願いいたします。

○加藤図書館長 それでは、お答えさせていただきます。

まず、北多摩6市の広域連携サミットということで、市長が表明されたということでございます。これにつきましては、現在相互利用しております立川市、東大和市、それと本市も入ります。昭島市。ですので、残り2市ということになると、国分寺市、国立市、ちょっと済みません、うろ覚えですので、もしかしたらごめんなさい、違っている部分があるかもしれないんですが、残りとしては国分寺市、国立市になろうかと思えます。ただ、いずれにしましても相互利用するためには、利用者の方が行きやすい場所から進めていかなければならないということもございますので、表明していることと、即なかなか結びつかないこともあろうかと思えますが、積極的に関わってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○池谷教育長 いかがでしょうか。

○杉原委員 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○池谷教育長 どうもありがとうございました。

その他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 では、これをもちまして質疑を終わります。

では、これより討論に入ります。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○池谷教育長 では、討論なしと認めます。

これをもって討論を終わります。

これより、議案第38号 平成30年度実施 平成29年度教育委員会事務事業点検・評価報告書についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○池谷教育長 ありがとうございます。

挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり決しました。

◎日程第5 その他

○池谷教育長 日程第5、その他に入ります。

委員からの報告等の御発言があればお受けいたします。

よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○池谷教育長 ありがとうございます。

それでは、続きまして事務局から報告等の御発言があればお受けいたします。

いかがでしょうか。

井上教育総務課長、お願いします。

○井上教育総務課長 事務局からは特段ございません。

以上でございます。

○池谷教育長 ありがとうございます。

これをもってその他を終わります。

◎閉会の辞

○池谷教育長 以上で、本定例会に付議されました案件の審議は全部終了いたしました。

これをもって平成30年第7回教育委員会定例会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

午前10時13分閉会